

誰もが、誰かの
きっかけに。

SOU 創発 HATSU

Interview



学長
山本 俊一郎氏

p.02
>>

SOUHATSU “創発”学長インタビュー

- ▶ これまでの活動を振り返って
- ▶ 今後の展望
- ▶ 描く大阪経済大学の未来

100周年ビジョン
「DAIKEI 2032」

教育ビジョン
研究ビジョン
社会実践ビジョン
大学運営・組織ビジョン

p.10 大樟会だより

SOUHATSU
p.12 news & topics

p.04>>

今回も白熱しました！



ZEMI-1
グランプリ
2024

SOUHATSU 的 教授紹介

働きがい
ってなんだろう？

データが語る、職場の課題と可能性



経営学部
高原 龍二 教授

p.06>>

学生が社会とつながる空間



キャリア
コモンズが
誕生！

p.08>>

Interview

任期3期目を迎えた、山本俊一郎学長へインタビューを実施。
これまでの実績と今後の展望について詳しく伺いました。学長
自身の言葉で語られた熱い思い、そして100周年ビジョンへの
道筋をお届けします。

1 これまでの活動を振り返って

私が学長に就任したのは2019年です。以来、2期に渡って注力してきたのは、建学100周年に向けた大学の基盤作りです。その中心となったのが、100周年ビジョン「DAIKEI2032」。この計画に基づき、次のような取り組みをしてきました。

まずは、財政の安定化と学生数の最適化です。文科省の方針を踏まえ、入学定員を適正化しました。学生一人ひとりへの教育サービスの質を保ちながらも、学費収入を安定させる方法を模索し、現在道筋が整ってきたところです。また、2024年度に新たに設立した国際共創学部は、大学のブランド価値の向上だけでなく、収益基盤を強化する役割も担っています。新学部ではありませんが、この一年で認知度が向上してきました。

そして、教育の質を高めるために、教育目標をディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)として可視化し、カリキュラムの精査と改善を実施。各部署でPDCAサイクルを実践する体制も構築しました。

さらに、「創発」を軸とした学びの場の整備にも力を入れました。図書館1階にラーニング・コモンズを設置したり、就職関連資料室をキャリア・コモンズという社会とつながる場としてリニューアルすることで、学生が主体的に学び、交流できる環境を作りました。教職員や学生の皆さんのおかげで、大学の雰囲気が一層良くなってきたと感じています。ゼミ活動や学生プロジェクトが学内外で賞を獲得するなど、学びの成果を社会に示す機会も増えました。

コロナ禍ではオンライン教育の導入を加速させる必要がありましたが、これを機に教育の幅を広げることができました。現在では、対面授業とオンライン授業を組み合わせた新しい形態を模索しています。

「大阪経済大学は、“新しい価値”を発信し、社会課題解決に光明を投じる先導者となる」

2 今後の展望

これからの3年間は特に、研究ビジョンと社会実践ビジョンの実現に注力していくつもりです。

研究活動については、研究者が集い創発する環境を整備したいと

考えています。例えば学内で学会やセミナーを積極的に開催し、異分野の研究者や外部機関との連携を強化できるプラットフォームを構築できればと思います。

社会実践については、エシカル(倫理的)なビジネスやサステナブルな活動の拠点として大学を位置付けたいと考えています。ゼミやプロジェクトを通じて、学生と企業・地域が協働する機会をさらに増やしていきたいですね。

もちろん教育ビジョンも重要テーマです。現場での体験や直接的な対話を重視し、学生が「自分ごと」として学びに向き合えるような機会を、今後も提供していきたいと考えています。

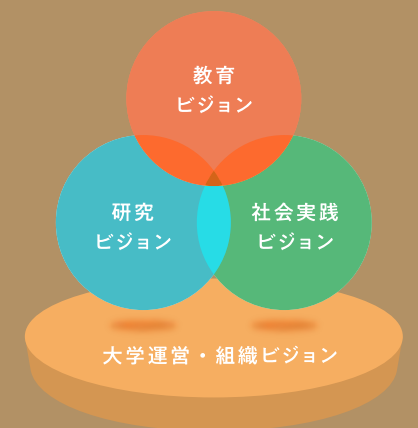
3 描く大阪経済大学の未来

本学は、新しい価値を発信し、社会課題解決に光明を投じる存在であり続けなければなりません。そのためには好循環を生み出す仕組みが必要です。これまでの取り組みを土台に、教育、研究、社会実践が三位一体となり、さらに魅力的で価値ある大学を目指して挑戦を続けていきます。



Our Vision

100周年ビジョン 「DAIKEI 2032」



▶ 教育ビジョン

自ら学びをデザインできる学生を生み出す
予測困難な時代を生き抜くために、主体的に学ぶ姿勢を育みます。多様な体験で得たものを発表・議論する場を設け、さらなる学びへ発展させます。

▶ 研究ビジョン

知の“結接点”となる
分野や産学官民を問わず、国内外の多彩な知を集積し、それぞれをつなげる場を形成することで、新たな価値を創出していきます。

▶ 社会実践ビジョン

商都大阪の原動力となる
学内のリソースを一体化し、中小企業や経済団体、自治体といった学外機関をつなぐハブ機能と、地域課題の解決を担うプラットフォーム機能を強化します。

▶ 大学運営・組織ビジョン

居心地の良い学びの場を形成する
空間・制度の面から、学びを誘発するキャンパスをデザインします。また、教職員の能力を発揮できる組織運営を行い、ビジョン実現の土台を形作ります。

Profile

学長
山本 俊一郎



埼玉大学大学院教育学研究科教科教育専攻修了後、東北大学大学院理学研究科で博士号を取得。2005年に本学経済学部講師として着任。2019年4月より本学学長に就任。専門分野は経済地理学。



研究テーマ
**NO MORE
売上泥棒!**

チーム名: 損害の多い料理店
二本杉ゼミ

1位



研究テーマ
**大学での学び・
生活における
意義の証明**

～10年分の
卒業生データを用いた
実証分析～

2位

チーム名: Myth 下山ゼミ



研究テーマ
**堆肥生成サービス
FUJISAWA
COMPOSTERS**

チーム名: コンポストと私、どちらが大事なの?

3位 中村ゼミ



「
本学で長年続く「ZEMI-1グランプリ」は、学生たちのゼミ活動の成果発表の場です。今回栄冠に輝いたのは、二本杉剛ゼミのチーム「損害の多い料理店」。飲食店の無断キャンセル問題をテーマに、予約時や予約後にどのようなアナウンスをすれば無断キャンセルが減るのか、行動経済学の観点から提案し、アンケート実験を行いました。実験結果を分析するだけでなく、大手グルメサイトや飲食店、経済産業省にもヒアリングを実施し、実社会での有用性を確かめた点は特に高評価でした。この他にも、地域活性化をテーマにした研究や、アプリやマッチングサービスの提案、堆肥生成サービス、大学での学びの意義など、バラエティに富んだプレゼンが行われました。
」

VOICE

優勝チームリーダーの声

去年惜しくも優勝を逃した二本杉ゼミの先輩方の雪辱を晴らすため、優勝を目指して出場しました。テーマに選んだ「飲食店の無断キャンセル問題」は、飲食店でアルバイトをしているメンバーからの発案でした。身近でありながらも、社会課題としては思った以上に経済的損失が大きいことが分かり、とても興味深い研究となりました。

チームでは意見がぶつかることもありましたが、リーダーとしてみんなの声を拾い、最後まで団結を大切にしました。プレゼン準備では夜遅くまで居残りし、練習を繰り返したことが印象的です。優勝という結果を聞いた瞬間は信じられませんでした。努力が報われたなと感じました。ZEMI-1出場の経験が、私の大きな自信となっています。



経済学部 3年
橋本 美優さん
(二本杉剛ゼミ)



FINALIST

決勝出場チーム

出場チーム(発表順)

研究テーマ

2位	Myth (下山剛ゼミ)	「大学での学び・生活における意義の証明 ～10年分の卒業生データを用いた実証分析～」
	ROUTE479 (藤原忠毅ゼミ)	「千林商店街を救え! ～千林商店街活性化計画～」
	ピスタチ漢 (藤原忠毅ゼミ)	「大経大 タバコboy捨てゼロへの挑戦」
	女子WACナンバー (二本杉剛ゼミ)	「女子WAC棒作戦! ～リケジョを増やすには～」
	Cチーム(仮) (中村健二ゼミ)	「資格勉強のモチベーション維持を助けるアプリ『Oicomy』」
1位	損害の多い料理店 (二本杉剛ゼミ)	「NO MORE 売上泥棒!」
	雨後の筍 (米川雅士ゼミ)	「日記×AIでストレスときようなら」
	乾杯はグラスを下から (米川雅士ゼミ)	「情報教育とゲーム、相性が最高すぎる件!!」
	Re:SHOCK (二本杉剛ゼミ)	「採用時のデータから早期離職を予測できるか ～決定木によるデータ駆動型アプローチ～」
3位	コンポストと私、どちらが大事なの? (中村健二ゼミ)	「堆肥生成サービス『FUJISAWA COMPOSTERS』」
	熱盛 (難波孝志ゼミ)	「沖縄の地域おこし協力隊の定住率に関する社会学的研究 -沖縄県今帰仁村及びうるま市を事例として-」
	Haar Tapple (中村健二ゼミ)	「美容師とマッチングするサービス『Haar Tapple』」



Point
1

ただ測定するだけでなく、 データを分析・活用する ことが重要

「最初からこの分野を目指していたわけではないんです」と語る高原教授。大阪大学大学院で臨床心理学を専攻し、修士課程修了後、労働組合のシンクタンクへ。そこで働きながら「働きがい」や「リーダーシップ」といったテーマに触れるうちに、調査や実験のデータをもとに科学的分析をする「産業・組織心理学」へと関心を深めました。

そんな高原教授は「研究は現場に役立つものでなければならぬ」と考えます。企業から依頼を受け、ストレスチェックやモラルサーベイのデータ分析や、それに基づく職場環境改善の提案を行うことも多いそうです。「労働者数50人以上の事業所においては年1回ストレスチェックをすることが法律で義務付けられていますが、ただ測定するだけでは意味がありません。そのデータをどう活用し、職場改善に繋げるかが重要です。本学も教職員を対象にストレスチェックをしていますが活用実態は見えません。ぜひ分析してみたいですね」

Point
2

審査委員長として携わる 「学生に知ってほしい 働きがいのある企業賞」

高原教授は、関西の中堅・中小企業を対象に「働きがい」を評価・表彰する「学生に知ってほしい働きがいのある企業賞」の審査委員長も務められています。本賞は、専門家だけでなく、学生も審査に参加する独自のスタイルが特徴。「学生が企業を評価することで、若い世代がどういう会社で働きたいと思うのかが見えてきます。一方で、専門家の視点と学生の視点の違いが明らかになるのも興味深いですね」。この賞では、企業の変革力や従業員とのエンゲージメントなど、5つの観点から「働きがい」の審査基準が設けられています。専門家は資料とインタビューを基に5つの側面で評価をしますが、学生は資料を基に「自分が働いてみたいと思うか、働きがいがありそうか」という1つの評価をする仕組み。「学生の評価基準は、柔軟な働き方や風通しの良さといった要素に重点が置かれているように見えます。一方で、専門家は制度や短期的でない安定性なども重視する傾向があります」。こうした評価の違いを、研究の一環として分析し、企業の持つ多面的な魅力を見つける手がかりにしているそうです。

「学生に知ってほしい働きがいのある企業賞」
<https://hatarakigai.net/>



Point
3

「働きがい」とは何か？ 心理学的な視点から

『「働きがい」は一言では説明できないですし、学術的に明確に定義されてはいません。でも心理学的に言うなら、『ワーク・モチベーション』（仕事の動機づけ）との関連が深いと考えられますね」と高原教授は言います。動機づけの主要な理論として、「内発的動機づけ」と「外発的動機づけ」に分けるものがあるそうです。

「内発的動機づけというのは、『仕事そのものが面白いからやる』というような、自分の内面からくるもの。一方、外発的動機づけは『給料が上がるからやる』といった、外部からの要因によるものです。面白いのは、両者が影響し合うことがあるという点です。例えばこんな実験(Deci, 1971)があります。被験者には一定時間パズルをしてから休憩をとってもらいます。パズル自体が面白いため、休憩時間であってもパズルを楽しむ人がいました。しかし、パズルを解くたびに報酬を与えるようにすると、休憩時間にパズルを触る時間の平均が短くなることがわかりました。つまり、『面白いからやる』という内発的動機づけが、『報酬のためにやる』に置き換わり、報酬がないのでやらなくなったということ。これは、アンダーマイニング効果と呼ばれています」

働きがいを感じるかどうかには、環境や動機づけの仕方が大きく影響するのだとか。「ただお金を払えば人がやる気を出す、という単純なものではないですね」と教授は強調しました。

Point
4

経営者の姿勢や行動が、 従業員のストレス軽減に影響

さらに高原教授は、職場づくりに関連する興味深い研究結果を教えてくださいました。「地方の工場でのメンタルヘルス問題に取り組んだ際のことです。従業員のストレス調査結果を受け、労働組合が社長に改善案を報告したところ、社長は即座に工場の幹部へ連絡して、環境改善を指示しました。この事実を現場の従業員が知ったことで、『自分たちの状況を上の人が本気で気にかけてくれる』と感じ、ストレスが軽減されたのです」。具体的な改善内容以上に、「従業員を気にかけている」という経営者の姿勢が、大きな意味を持つということが示された事例でした。

教授は今後の展望として、中小企業を対象にした研究にさらに力を入れるそうです。「大企業と中小企業では、働き方や環境が大きく異なります。そのため、大企業のデータを元に開発された理論が中小企業にそのまま適用できるわけではないんです。教授は中小企業に寄り添い、それぞれの特性に合った解決策を見出す研究を目指しています。



PROFILE

経営学部

たか はら りゅう じ

高原 龍二 教授

2012年4月より本学経営学部に着任。公認心理師、臨床心理士。専門分野は産業・組織心理学。一般社団法人大阪公認心理師会の設立に携わるなど、産業領域の心理職の知識や技能の向上のための活動にも取り組む。



“働きがい”って
なんだろう？

データが語る、職場の課題と可能性



学生が社会とつながる空間

キャリア・コモンズがB館1階に誕生！

2024年9月、学生が自分自身のキャリアを考え、次の一歩を踏み出すための新しいスペース「キャリア・コモンズ」が本学キャンパス内に誕生しました。こちらの空間では、学生同士や社会人との交流を促進し、学生自身がキャリアと向き合うためのさまざまな活動をサポートしています。



キャリア・コモンズ 設置プロジェクト関係者より

内装は、学生の皆さんが気軽に入りやすい空間を目指しました。キャリアや進路選択は特別なものと捉えがちですが、日常の中で自然に考えられる場になればと思います。就職活動中の3・4年生はもちろん、1・2年生にも積極的に活用してほしいです。今後は、OB・OGとの交流会をはじめ、多彩なイベントの開催も予定しています。

総務部
佐藤 萌



進路支援部
和田 仁美

キャリア・コモンズは、進路支援センターの向かいにあります。改築前の就職資料室の堅苦しいイメージを一新し、明るい色調の家具を採用することで、親しみやすい空間を実現しました。

エントランス

Entrance

廊下の全面ガラスを活かし、イベント開催時には中の様子が伝わり、思わず立ち寄りたくなる開放的な空間を演出しました。また、入口に設置した「CAREER COMMONS」のサインは、フォントやサイズを工夫することで、廊下からの視認性を高めつつ、圧迫感のないデザインに仕上がっています。



リラクセスエリア

Relax

カフェのような雰囲気、学生同士が気軽に会話できる空間です。暖色系のインテリアとフェイクグリーンを取り入れ、居心地の良さを演出。廊下側はガラス張り、開放的な雰囲気も感じられます。飲食も可能なため、昼休みにはランチを楽しむこともできます。



スタディエリア

Study

静かで落ち着いた雰囲気の学習スペースです。あえて照明は暗くして、個人で集中できる空間を演出しています。PCや会社四季報・各業界誌など就職関連の書籍が100冊以上並び、就職活動中の学生のニーズに応えます。

第1回

キャリア・コモンズ Talk開催

Career Commons talk

「キャリアは今の自分の積み重ね」という視点から、学生がキャリアをカジュアルに考えられる機会として「キャリア・コモンズTalk」を企画しました。

2025年1月16日（木）に開催した記念すべき第1回のゲストは、オリックス・バファローズの才木海翔選手。「プロ野球選手というキャリアについて」をテーマにトークセッションを行いました。

お昼休みのリラックスした雰囲気、様々なキャリアを持つ方からお話を伺うイベントとして、今後も定期開催を予定しています。



卒業生インタビュー

総合食品卸
株式会社丸正高木商店 代表取締役社長たかぎ よしのり
高木 良典氏(50回)

100年近くの間、

京の食品流通を担ってきた会社の

新たな舵取りは、同窓の仲間

京都人で、この黄色いお店を知らない人はいない位の有名店「卸売ひろばタカギ」の社長に卒業生が就任されたとお聞きし、JR二条駅近くの「卸売ひろばタカギ三条店」にやってきました。このお店では、お菓子や食品、飲料、日用品が格安で販売されています。平日ですが大きな駐車場は満車で、店内はバーゲン会場状態です。

テレビの情報番組などで、取材に来たお笑い芸人さんが「社長、ホンマにこんな値段でええんでっか」と驚く姿を見た方も多いと思います。本日は、この旗艦店のすぐ近くにある本社で取材させていただきました。

『菓子・食品 タカギ卸』
<https://takagi064store.com/>

— 社長就任、おめでとうございます。まずは、高木社長のことをお聞かせください。

私は、昭和37年に二条城の近く京都市中京区で生まれました。地元の乾小学校、中京中学校から京都府立堀川高等学校に進学しました。中学では歴史部、高校では生物部に所属しました。子供の頃から家業を継ぎたいと思っていましたので、大学は経営学部を目指しました。私は旅行が好きで、大学時代は「郊外散策サークル」に入りました。このサークルでは、月に一回位の割合で旅行に出かけました。一番印象に残っているのは、キャンプをしながらの山陰横断一週間の旅です。大

学時代の仲間、先輩たちとは、今でも定期的に集まっています。今回は、大経大キャンパスでの開催を予定しております。卒業後、同業の東京の菓子卸株式会社タジマヤさんに2年間勤めました。当社では、その2年前より「C&C」※1を始めていましたので、先駆者である会社での学びは大変役立ちました。また、東京の会社ならではのスマートな展示方法や商品管理システムについても学ばせていただきました。

— 次に、御社のことをお聞かせください。

昭和4年に祖父の高木慶治が大阪での修行の後、近くの三条会商店街で「五色豆」の製造販売を始め、その後他のお菓子も扱うようになりました。現在は本社卸外販部、特販部に加え、「卸売ひろばタカギ三条店」、「卸売ひろばタカギ桂店」、「卸売ひろばタカギ高槻宮野店」、新鮮野菜メインの「農産物直売所産直ひろば」の4店舗を運営しています。

元々は町のお菓子屋さん、地元のスーパー、病院の売店等への卸売がメインでした。ところが、大手スーパーやコンビニの台頭でこれらのお店が激減し、同業の地場流通菓子卸も京都では当社を含めて現在では3社にまで減り京滋における地場食品卸も数社になりました。

そんな中で生き残りをかけて当社では様々な取り組みをし

ています。今まで食品や日用品を扱っておられなかった異業種に、ノウハウを提供して成功した事例も多くあります。また海外では日本のお菓子や雑貨が大人気で、海外向けの売り上げも増えています。「産直ひろば」では、近隣の農家さんと契約して新鮮な野菜をお値打ちに販売し、喜ばれています。

世の中の仕組みが、どんどん変わっていくなか当社では来る創業100周年に向けて、守っていくべきものと変えていくべきものを両方大切にして次世代に繋がっていく企業を目指します。

最後に、もしこの会社に興味を持った後輩が居られたら、ぜひ連絡してください。お待ちしております。

お見せいただいた資料では、卸売業で全国170位、売上高約59億円とあります。この会社が、京都で今も頑張っている多くのお店を支えておられます。そして、多くの京都人も恩恵を受けています。実は、社長就任を知る直前にこのお店を訪れました。私が役員をしている自主防災会の、防災訓練用ペットボトル飲料購入のためです。

地藏盆※2、バザー、運動会などなど、大変お世話になっています。終了後、様々なテレビ取材の記録をお見せいただきました。すると、どこかで見た方が映っておられます。何と達淳一氏※3ではありませんか。読売テレビの取材で来店されたそうです。高木社長に彼が本学の後輩だとお伝えすると、大変驚かれました。同窓の仲間は様々な所で活躍されています。

- ※1 cash and carryの略。現金払い、商品持ち帰りの卸売業。現金問屋をさす。
- ※2 近畿地方中心に8月24日前後に行われる、子どもを救うお地藏さんに感謝する行事。子供たちにお菓子を配る習慣がある。
- ※3 本学卒業生(71回)。俳優(大河、朝ドラ等出演)、気象予報士(読売テレビす・またん出演中)。「澱江」57号P37参照。

Profile

高木 良典氏

昭和37年 京都市中京区生まれ。京都府立堀川高等学校卒業。
昭和59年 本学経営学部卒業。株式会社タジマヤ入社。
昭和61年 株式会社丸正高木商店入社。令和5年6月代表取締役社長に就任。

(聞き手…広報部部长・田中伸治)

「澱江61号」の編集は、もう始まっています。

多くの卒業生のニュースが、すでに届いています。大樟会では本年も、大学と共に様々な事業に取り組みます。来号も多彩な内容をお届けいたしますので、ご期待ください。

SOUHATSU news & topics



人事

山本俊一郎 学長 が再任(3期目)

学長の任期満了に伴う次期学長の選考を行い、2024年11月26日開催の理事会において、大阪経済大学長に現職の山本俊一郎氏を再任しました。任期は2025年4月1日～2028年3月31日です。山本学長は今回の再任で3期目となります。

人事

2024年度 退職教員

2025年3月31日付で退職される先生方です。これまでお世話になり、ありがとうございました。

経済学部

- 小川 雅弘 特任教授
- 友田 康信 教授
- 齊藤 美彦 特任教授
- 漆 さき 准教授
- 高橋 亘 特任教授
- 林 遵 講師

経営学部

- 大川 裕介 講師

情報社会学部

- 草薙 信照 教授
- 浅田 拓史 教授
- 苔米地 なつ帆 准教授

人間科学部

- 中川 一郎 教授

クラブ活動



サッカー部 村上陽斗さん いわきFCに入団

体育会サッカー部FWの村上陽斗さん(経済学部 4年)が2025年シーズンより、いわきFC(J2)に加入します。図書館ラーニング・コモンズで山本俊一郎学長、大石篤人監督、株式会社いわきスポーツクラブ 代表取締役 大倉智氏、強化部 平松大志氏と記者会見に臨み「応援いただいた方々に1日でも早く結果という形で恩返しできるよう頑張りたい」と抱負を語りました。

クラブ活動



弓道部(女子)が 「大阪スポーツ賞」受賞

大阪スポーツ賞は大阪府及び大阪府教育委員会が、府のスポーツ・体育の振興に寄与した人や団体に対し贈呈しているものです。今年は弓道部(女子)が受賞し、2024年9月14日(土)にサティホール(大東市立文化ホール)で表彰式が行われました。

イベント

大樟祭を開催

2024年10月25日(金)～10月27日(日)に第76回大樟祭が大隅キャンパスで開催されました。テーマは“大経の霹靂～笑う学祭には福来る”。“みんなの生活に刺激を与え、楽しめる学祭にしたいという思いが込められています」と実行委員が話すように、工夫を凝らしたイベントが各会場で開催され、キャンパス内がにぎわいを見せました。





イベント

だいけいだいきッズスマイルフェスタを開催

2024年11月24日(日)に大隅キャンパスで防災・教育・福祉をテーマにした子ども向け体験イベント「だいけいだいきッズスマイルフェスタ ～ぼうさいでつながる力、かがやく命～」が開催されました。当日は、1,600名を超える地域の子もたちとその保護者の方々が集まり、約40種類のプログラムはどれも大盛況。キャンパスは終日賑わいを見せました。



講演会

特別講演会
「夢への挑戦 ～グローバルに生きる～」を開催

2024年12月16日(月)に、2024パリ五輪・ブレイキン日本代表のShigekix(半井重幸)選手を招いて講演会を開催しました。会場に登場したShigekix選手はBGMに合わせてブレイキンを披露。世界レベルのパフォーマンスに会場は大いに盛り上がりました。約1時間インタビュー形式で講演。ブレイキンを始めたきっかけやパリ五輪のこと、昨年の国際共創学部CM撮影の裏側など興味深いお話をたくさん聞かせていただきました。質疑応答では次々と学生から質問が寄せられ、交流を深めることができました。



トピックス

大阪経済大学
日本経済史研究所が
保管する歴史資料、
国の重要文化財に指定

「飛脚問屋井野口屋記録」が、2024年8月に国の重要文化財に指定されました。「飛脚問屋井野口屋記録」は、尾張藩の御用飛脚であった井野口屋の由緒や御用飛脚になった経緯、営業や家政などの記事が、享保8(1723)年から天保14(1843)年の長期間にわたる記録が収録された、全33冊の史料です。10月12日(土)には歴史資料の専門家をお招きして記念講演会を開催しました。

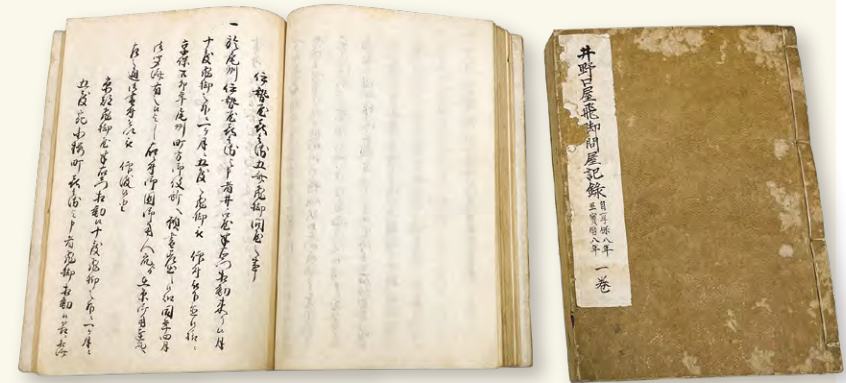
公式ホームページで、対談やイベントレポートを公開中です。



国の重要文化財に指定
『飛脚問屋井野口屋記録』の
すごさを読み解く



公開講座「黒正塾」で、
史料を紐解く面白さを
再発見



トピックス

本学教員の書籍紹介 2024年度に刊行された、本学教員執筆・監修の書籍を紹介します。



信頼と不信の
哲学入門
キャサリン・ホーリー 著
稲岡 大志 翻訳(監訳者含む)
岩波書店



健康・
医療心理学
(第2版)
岩田 光宏 共著
医歯薬出版株式会社



悲しみを言葉に
一終末期の子どもと
家族のこころのケア
ドロシー・ジャッド 著
鵜飼 奈津子 監訳
誠信書房



虐待を受けた子どもの
アセスメントとケア2
一地域生活と社会的養護を
支える心理と福祉の協働
鵜飼 奈津子 共編著・分担執筆
誠信書房



セミナー 子どもの
精神分析的心理学
一こころのケアに生かす
理論と実践
鵜飼 奈津子 分担執筆
岩崎学術出版社



「途上国」から問う
教育のかたち
一国際協力を歩く、
フィールドの声を聴く一
小川 未空 共編著・分担執筆
左右社



入門
科学技術と社会
河村 賢 共著
ナカニシヤ出版



新版 福祉国家と
地方財政(第2版)
塚谷 文武 共著
学文社



フィナンシャル・
レビュー
2024年第4号 通巻158号
福本 智之 共著
サンワ

サッカー部

大石 篤人監督 × 村上 陽斗選手



後悔しないように、
1日1日を全力で過ごすことが大切。

[右] 村上 陽斗(むらかみ はると)さん……経済学部4年(2024年度現在)。サッカー部主将を務める。卒業後の2025年シーズンから、プロ選手としていわきFC(J2)に所属。ポジションはFW(フォワード)。
[左] 大石 篤人(おおいし あつと)さん……プロサッカー選手として活動後、指導者の道へ。高校やプロリーグでのコーチまたは監督を歴任し、2022年に本学サッカー部コーチに。翌2023年より監督に就任。

一大石監督の指導方針と、それによって生まれたチームの変化について教えてください

村上 僕が2年生の時に篤人さんが本学サッカー部の監督に就任されました。チームの雰囲気がガラッと変わって、アグレッシブになったと思います。勝つために自分たちは何をすべきか、話し合うようになりました。また、篤人さんの「当たり前のことを当たり前にする集団になろう」という言葉がとても印象に残っています。

大石 それは繰り返してみんなに伝えていきますね。指導者は選手が困ったときにサポートする役割に徹するべきで、究極的には監督がいなくても自分たちで考えてプレーできるチームが強いチームだと考えています。そのためには、自分で考え行動できる“自主自律”が目標です。だからこそ当たり前のことを当たり前にする。例えば、挨拶をする、ゴミが落ちていたら拾うといった日常生活から、練習開始の5分前には来る、道具は丁寧に扱うといった部活動での行動も全て、当たり前のこととして積み重ねることが大切だと思います。

村上 その考え方はチームに浸透していますね。練習面では、篤人さんが監督になってから火曜日のフィジカルトレーニングがめちゃくちゃハードになりました。本音を言うとやりたくないくらいキツイです(笑)。でも、それを「当たり前」にすることが勝つためには必要だと分かったので、とても前向きに、楽しく取り組んでいます。

大石 厳しい練習の中でも選手が楽しめているかどうかは、気にかけています。そういう環境を作るのが私の役目ですから。

一環境づくり、意識づくりを大切にされているのですね

大石 陽斗のようにプロになる選手はほんの一握り。だからこそ学生たちには就職後、その会社や社会から必要とされる人間、活躍できる人間になってほしいと思っています。私が大学でサッカーを指導する意味はそこにあるのかなと思いますね。

一大石監督から村上選手へのメッセージがあれば教えてください

大石 陽斗はチーム全体のレベルアップに大いに貢献してくれました。プロの世界でも努力を怠らず、その力を存分に発揮してほしいです。ただ、やっぱりプロの世界は厳しい。努力が必ず報われるわけではありません。どんな結果が出るか分からなくても、自分が後悔ないように1日1日を全力でやるしかない、と伝えたいです。

村上 はい、ありがとうございます！後悔しないよう精一杯力を出し切ります。

大石 サッカーに限らず、人生においても、努力してきた自分に自信を持てるように日々の積み重ねを大切にしてください。期待しています。

